（社）日本原子力学会　標準委員会　リスク専門部会
第 101 回　レベル 1PRA 分科会　議事録

1.　日時　第 101 回：2020 年 2 月 19 日（水）13:30～16:40

2.　場所　東京大学 工学部 8 号館 510 会議室

3.　出席者
（出席委員）髙田主査，桐本副主査，橋本幹事，増子（石田委員代理），岩谷，二木，
藤崎（谷川委員代理），佐藤（輝），黒岩，塩田（10 名）
（常時参加者）佐藤（遼）（1 名）
（敬称略）

4.　配布資料
P4SC-101-1　第 100 回 L1PRA 分科会議事録（案）
P4SC-101-2　講習会の結果について
P4SC-101-3-1　内的事象 L1PRA 標準 統合性能化 基準案
P4SC-101-3-2　内的事象 L1PRA 標準 統合性能化 指針案
P4SC-101-3-3　内的事象 L1PRA 標準 統合性能化 適用事例候補

5.　議事内容
(1) 出席者/資料確認
委員 10 名が出席しており，分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。また，配布された資料が確認された。

(2) 第 100 回議事録の確認
資料 P4SC-101-1 を用いて第 100 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし，特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 講習会の結果について
資料 P4SC-101-2 により，出力時と停止時を合わせた今年度の講習会の結果について紹介があった。今後の講習会の参考としていくこととした。

(4) L1PRA 標準統合性能化
資料 P4SC-101-3-1 から 3-3 により，L1PRA 標準統合性能化案について検討した。主な議論は次のとおり。

・全般事項

－標準委員会での標準の階層化に関する議論の紹介があった。また，－人的過誤による起因事象は，内的事象か外的事象かについて意見交換があった。停止時での人的過誤に関する起因事象では，事象の進展は内的事象に同様となっていること，リスク評価が進めばどこに属するかは重要でなくなるであろうことなどの意見があった。

－中間報告に向け，基準と指針の分担のあり方，箇条題名の記載振りなども含めて，標準全体のレビューを進めていく。起因事象の除外基準，炉心損傷の判断基準，使命時間などの重要なポイントとなる例示のあり方もバランスを見ながら調整とする。また，引用する標準の発行年を記載しない方向のため，引用には個々の箇条を記載しないことで引用標準の改定に伴う混乱を避けることとする。

・指針 7.1 c) 従属性を有する起因事象での規定振りが「考慮する」となっている箇所は，実施することを明確にして修文する。

・指針 7.3 e) 同定した起因事象の除外において，稀有であっても影響の大きい事象はL1PRAの範疇で評価する旨を明確にする。

・指針 8.2 b) 使命時間では，個別の解析や操作の訓練状況を反映して設定する旨を明確にし，設定例に類する部分は附属書に移設で検討する。

・基準 9.2.3 での L2PRA に影響する因子のモデル化における，なお書き部分は自明であるとも考えられ，規定としての要否を検討する。

・基準 10.2.3，指針 10.3 などで「除外基準」となっている箇所は，用語と混乱する可能性があることから，「除外する基準」などの記載振りを検討する。

・指針 11.1 起因事象を誘発する起因事象において，出力運転時での検討対象が不明確であることから，現状記載のサポート系や停止時に加えて出力運転時での適用に関しても検討していく。

・基準 11.2.4.2 人的過誤のスクリーニング値の使用は，記載内容から指針に移設する。

・基準 13 事故シーケンスの定量化で，感度解析は影響因子の同定のため，重要度評価は支配的因子の同定のためであることを明確にし，箇条 13 全体で規定振りを再調整する。

・指針 13.2 における SOKC の扱いについての検討を反映する。

(5) スケジュール，その他

次回分科会は 3 月 12 日 PM の予定とする。また，次々回は 4 月 14 日 PM を候補とする。
今回議論を反映した基準・指針の改定案を，次回分科会前にレビュー用として周知する。

以 上